

はじめに	3
第一章 茶の湯空間の近代、その概要	7
第一節 世界の視点・近代の視点からの茶の湯空間	7
第二節 近代以前の茶の湯空間とその影響	10
第三節 西洋文化の受容と茶室	13
第四節 ジェントルマン・アーキテクトとプロフェッションナル・アーキテクト	21
第二章 公の場所に設置された数寄屋	33
第一節 冬の時代に誕生した茶の湯空間	33
第二節 明治初期の東京の公園と社交施設	35
第三節 芝公園と紅葉館	40
第四節 麴町公園と星岡茶寮	55

第三章	明治期の茶室の文献	83
第一節	明治期の茶室と茶の湯の文献	83
第二節	今泉雄作「茶室考」	86
第三節	本多錦吉郎『茶室構造法』	89
第四節	武田五一の茶室研究	98
第五節	好古類纂・桂離宮と茶室	113
第四章	大正期の茶室の文献	125
第一節	大正期の雑誌にみる茶室	125
第二節	田園都市と田舎家と茶室	140
第五章	昭和前期の茶室の文献	155
第一節	近代建築家による茶の湯空間の再発見	155
第二節	「茶室と茶庭」特集号	157
第三節	「日本建築再検・教寄屋造」特集号	161
第四節	「近代教寄屋建築」特集号	178
第五節	「茶室建築」特集号	185
第六章	近代の安土桃山イメージ	198

第一節	猿面茶室と愛知県博覧会	198
第二節	豊臣秀吉と近代の茶室	205
第三節	近代の利休イメージと茶室	211
第七章	高谷宗範と松殿山荘	221
第一節	高谷宗範の建築活動	221
第二節	芝川邸をめぐって	228
第三節	松殿山荘	240

初出一覧	あとがき	索引
------	------	----

はじめに

近代における茶の湯空間に関する研究は、現在発展途上といえる。建築史の分野における近代については、これまで多くの研究がなされてきたが、いわゆる近代和風建築については必ずしも多くはなかった。このことは、時代を変えてきた新しい物や動きに対しては注目度が高くなる傾向があるが、伝統の展開については軽んじられてきたことを意味する。一方、これらの建築は、世界から、あるいは近代的な視点から大いに注目されていた。昭和前期には桂離宮は「世界の傑作」と呼ばれ、ギリシアのパルテノン神殿と並び称されることもあった。数寄屋建築を含む茶の湯空間への注目度が非常に大きくなり、多様な多くの作品が創作された。しかし昭和中期以降、それらの言説や作品は漸減されるようになり、場合によっては批判的な見方さえ生じてきた。皮肉なことに、その頃から建築史においても近代についての研究が活況を呈するようになった。

一方、近年においては、近代和風建築の全国的調査が行われ、また伝統建築の保存や活用に対する専門家や市民からの注目度が増大しつつある。それらの遺構や文献の研究により、今後さまざまな角度から同分野の研究が進むと考えられる。さらに現代、世界各地の多様な文化情報が発信されるなか、日本の文化も世界において注目されている。オリジナリティ豊かな和風建築、とりわけその高い技術とたぐいまれな意匠をもつ茶の湯空間への注目度は高まりつつある。これは近代に限定されたものではないが、より正確

に世界へ発信するためには、中世・近世・近代を通じての多面的な情報が提供されなければならない。

ところで、近代建築についての書籍はどれくらいあるのだろうか。国立国会図書館の蔵書検索で、タイトルに「近代」「建築」を含む同館所蔵の文献を検索したところ、二四四一件（二〇一七年五月三十日現在、NDLレオパC詳細検索による。以下同）ある。これには建築分野以外のものも含まれているが、一方で「近代」「建築」を含まない近代建築の文献はかなりの数にのぼると想像されるものであるが、それらは省かれている。この検索結果に対し、「茶の湯」「空間」「近代」で検索すると、わずか四件。そのうちの一件は、筆者が二〇〇四年に著した『近代の茶室と数寄屋・茶の湯空間の伝承と展開』（淡交社）、そしてやはり拙稿「刊行物にみる茶室近代化の黎明」を含んだ『建築史論聚』（中村昌生先生喜寿記念刊行会編、二〇〇四）がみられる。キーワードを換え、「近代」「和風」「建築」で検索しても一〇一件。この内の多くは、都道府県ごとに行われ、ほぼ終了に近づいた近代和風建築総合調査報告書である。そして「近代」「茶室」で検索すると三十三件で、ここには拙稿「近代の茶の湯復興における茶室の安土桃山イメージ」を含んだ『近代京都研究』（丸山宏、伊從勉、高木博志編、二〇〇八）や拙稿「近代・茶室の伝承と展開」（二〇〇三年『淡交』十二ヶ月連載）がみられる。また、「近代」「数寄屋」では二十二件抽出されるのみで、筆者の博士論文『近代数寄屋建築の黎明…公に設置された明治期の数寄屋建築』がみられる。もちろん組み合わせを替えたり、他のキーワードを使うと違った結果になるが、いずれも少数であることには違いない。

近代建築についてなにかの知識がある人でも、近代の茶の湯空間、すなわち茶室や数寄屋建築についての知識がある人は極めて少数だと思われる。また茶の湯についての知識がある人においても、近代の茶の湯空間については同じことがいえると思われる。本書における第一章は、近世までの茶の湯空間につ

いての略説、そしてその近代についての総論として概要を示すものであり、諸先学の研究に筆者の研究の概要を加えたものとなっている。これは、最初に基本的な流れを示しておくことによって、以後の章の内容や位置づけがより明瞭になり、理解が深まると考えるからである。第二章以降は各論として、日本建築学会や茶の湯文化学会、意匠学会などにおいて発表した論文をその後の知見によって書き改め、また新たに書き下ろした部分を大幅に加え、まとめ上げたものである。

なお、本書の書名『茶の湯空間の近代』について少し説明しておこう。まず、ここでいう「茶の湯空間」は、茶の湯のために造られた茶室、そして茶室あるいは茶の湯の考え方の影響を受けた数寄屋建築をさす。数寄屋建築に対する捉え方には、時代によって、あるいはそれを使用する人によって若干の違いがあるが、ここではあまり深入りせず、少し曖昧なものをのこしたまま使用している。研究としては厳密に定義することが肝要であることは承知しているが、数寄屋建築のもつさまざまな「ゆらぎ」のようなものが、厳密な定義によって減じる恐れがあるのではないかとの考えからである。ここでは、数寄屋、数寄屋造、数寄屋普請など、言葉の使用についても状況に応じて対応している。

また、その「茶の湯空間」の「近代」としたタイトルであるが、必ずしも近代の茶の湯空間の多くの具体的事例について、それを祖上に載せ考察するという手法はとっていない。具体的に示しているのは最終章の松殿山荘のみである。第二章の紅葉館や星岡茶寮については、茶の湯を含む日本の伝統文化が、近代化に伴って凋落してきたと考えられる時期において、いかにして復興をなしたのかという視点で、その建設経緯を中心に考察したものである。

そして第三章から第五章にかけては、建築を中心とした近代の文献においてどのような視点で茶の湯空間が扱われているのか、それが近代の歴史の中でどのような意味をもつのか、ということなどについて考

察している。ここでは、近代の建築家たちが、近代の空間をみる視点で、伝統的な茶の湯空間をどのように考えるか、という観点を重視している。歴史を伝えてきた茶の湯空間と、歴史を否定してきた近代、この両者の関係を読み解いていきたいと考えるものである。「茶の湯空間」が「近代」にどのように理解されてきたのか。この部分がとりわけ本書の核ともいえる部分である。

ここで、本書における研究の手法について簡単に記しておきたい。第二章では、明治期の公文書を中心に、第三章から第六章にかけては、当時の建築の雑誌や図書を中心に、いずれも文献からの直接証拠によって考察を進めていくものである。一方、最終章においては、現代までにその文献がほとんど発掘されていない松殿山荘を扱っているが、ここでは現存する建物を中心に、僅かな文献資料を加え、状況証拠を積みあげ、考察を行うものである。

近代における茶の湯空間についての研究は、発展途上にあると先に述べた。その全貌は、今後研究が進んで、大いに書き換えられることになるかと思う。筆者自身、今後の研究によって、書き加え、書き改めていきたいと考えており、また、これからの多くの研究者たちによって大きく書き改められることがあろうかと思う。筆者はこの分野の研究が飛躍的に進むことを切に望むものである。本書はそのたたき台になればさいわいである。

〔初出一覧〕

第一章第三節 「近代の茶室」〔普請〕五十号、京都伝統建築技術協会、二〇一一年）

第四節 「近代における数寄屋の展開と大工」〔竹中大工道具館巡回展 数寄屋大工——美を創造する匠——〕
竹中大工道具館展覧会図録、二〇一二年）、「近代数寄屋の立役者たち」〔なごみ〕三七八号、淡交社、
二〇一一年）

第二章第二節 「東京府の公園経営と星岡茶寮の建設経緯——星岡茶寮の建築の研究 その1——」〔計画系論文
集〕四九一号、日本建築学会、一九九七年）

第三節 「東京芝公園の紅葉館について——明治期における和風社交施設の研究——」〔計画系論文集〕五
〇七号、日本建築学会、一九九八年）

第四節 「創設期における星岡茶寮について——星岡茶寮の建築の研究 その2——」〔計画系論文集〕五一
二号、日本建築学会、一九九八年）、「紅葉館と星岡茶寮について——一八八〇年代の数寄屋——」
〔茶の湯文化学〕五号、茶の湯文化学会、一九九八年）

第三章第三節 「刊行物にみる茶室近代化の黎明——本多錦吉郎・武田五一を通して——」〔中村昌生先生喜寿記念
刊行会編『建築史論聚』、思文閣出版、二〇〇四年）

第四節 「武田五一『茶室建築』をめぐる——その意味と作風への影響——」〔計画系論文集〕五三七号、
日本建築学会、二〇〇〇年）

第五節 「明治期における茶室・数寄屋の文献について——好古類纂をめぐる——」〔大会学術講演梗概
集〕二〇〇四年版、日本建築学会、二〇〇四年）

第四章第一節 「大正期の雑誌にみる茶室論の傾向について——モダニズムへつづく茶室論の研究——」〔計画

系論文集〕六五九号、日本建築学会、二〇一一年)

第二節 「田園都市と近代の茶室について」〔大会学術講演梗概集〕二〇一〇年度、日本建築学会、二〇一〇年)

第五章第五節 「再読関西近代建築 茶室建築特集号」〔建築と社会〕一二二八号、日本建築協会、二〇一六年)

第六章第一節 「名古屋博物館と猿面茶室」〔近代数寄屋建築の黎明——公に設置された明治期の数寄屋建築——〕東京

大学提出博士請求論文、二〇〇〇年)

第二節 「近代の茶の湯復興における茶室の安土桃山イメージ」〔丸山宏・伊從勉・高木博志篇〕『近代京都研

究』、思文閣出版、二〇〇八年)

第三節 「利休堂にみる近代的性格について」〔大会学術講演梗概集〕一九九七年度、日本建築学会、一九九七年)

第七章第一節 「今遠州高谷宗範の建築活動について」〔大会学術講演梗概集〕二〇一三年度、日本建築学会、二〇一

三年)

第二節 「甲東園芝川邸の茶室と高谷宗範について」〔大会学術講演梗概集〕二〇一四年度、日本建築学会、二

〇一四年)

第三節 「高谷宗範『茶室と庭園』をめぐって」〔大会学術講演梗概集〕二〇一五年度、日本建築学会、二〇一

五年)、〔数寄者高谷宗範の建築意匠について〕〔デザイン理論〕六十九号、意匠学会、二〇一六年)

※本書を纏めるに際し、上記論文以外に新たに書き下ろした部分も多数組み込んでいる。また上記論文にもそれぞれ大幅な加筆修正を行い、あるいは関連する複数の論文を組み合わせて編集した部分もあることを付記する。

あとがき

近代の茶の湯空間について、いくつかの側面からまとめることができた。それぞれ既発表の研究を元にしたものであるが、本書にまとめるにあたり、大幅に見直した。あるいはむしろ新しく書き下ろした、といった方が良い部分もずいぶんと多い。私にとって研究は「常に発展途上にある」、といっても良いかも知れない。十年以上前に書いたものを見直していると、いろいろ書き改めたくなるし、またそこから新たなテーマもみえてきた。新たに書き加えたが、やむなく省いた部分もある。でないと永遠に書き終えることができないのではないかと思っ
てしまったからである。そのところは今後何かの機会に発表したいと思う。

それから、本書はもちろん近代の建築についての内容を扱ったものであるが、一部近世の内容も含んでいる。例えば豊臣秀吉や千利休、とくに利休に関しては随所で現れる。私自身は最初に近代建築史の研究から入っていったのであるが、今では近世のことも研究テーマとしており、それは守備範囲である。あらためて感じることは、あたりまえのことであるが、歴史は積み重ねであるということ、直接扱う内容が近代であっても、少なくともこの分野においては近世のことを理解していないと、大切なものを逃がしてしまう恐れがある。また横への拡がり、例えば西洋への理解も大切だということを感じた。

明治から昭和前期にかけ、茶の湯空間を代表とする日本建築は、西洋から大きく注目されていた。しかし日本建築も近代的な転換が求められていた側面もある。最後に取り上げた松殿山荘をみると、まさにそれをあらためて感じる。素人であった高谷宗範が幅広く知識を吸収し、世の中がどんどん変化していた二十世紀初頭において、プロを超えるラディカルな姿勢で建築に取り組んでいた。とてつもないものにかかわってしまったと、時にひる

んでしまうこともあったが、一方で観察すればするほど、研究意欲がきき立てられる建築でもあった。資料が十分ないため、数少ない情報から考察を重ねていくことは、不安でもあり楽しみでもあった。おそらく他の角度からの視点もあるだろうし、今後新たな資料が発見され、見方がひっくり返るかも知れない。

最初にもいったが、本書はたたき台として書いたつもりである。新たな研究者の方が書き改めていただければ幸いであるし、私自身もそうしてみたいと考えている。この分野の更なる発展を願うしだいである。

私がこのような著書を上梓できるのも中村昌生先生に指導いただいたおかげである。研究室の中ではさほど優秀でもなかった私は、卒業してからずいぶん年月を経たある日、たまたまであるが先生に個人蔵の堀口捨己の図書をみせていただく機会があった。私も持っていて何度か読んだ本である。今さらと思いつつもその本をみて驚いた。私のものとは違い、そこには付箋とびっしりと書き込みがあった。このときの衝撃は、私の研究意識への大きな刺激となった。じつは今回の出版の企画はその数年のち、思文閣出版の田中峰人氏からお声を掛けていただいたのがきっかけであったが、先の示唆は今回の内容をまとめるに際し、私の中で大きな存在となっていた。一方で少々時間がかかりすぎた側面もあり、担当いただいた原宏一氏や井上理恵子氏にはご心配をおかけしたと思う。本書の内容については、建築史の諸先学をはじめ各分野の皆様から貴重なご意見、あるいは資料の呈示をいただいた。そして学位論文でお世話になった鈴木博之先生には、本研究にかかわることではジェントルマン・アーキテクトについて、短期間の師事ではあったが、広範囲にわたるご指導をいただいた。また博物館明治村、千島土地株式会社には快よく研究に協力いただいた。末筆ながら感謝申し上げます。

尚、本研究は日本学術振興会科研費17HP5249の助成を受けたものです。

二〇一七年十一月

桐浴 邦夫

索引

「豊公三百年祭図会」	206
『豊国祭記要』	208
「豊太閤と家康と茶道」	217

ま行

「曲がり木」	161
『明治事物起源』	58
『名所図会』	43, 51, 56, 62, 70
『名物数寄屋図』	85
「桃山時代の茶室遺構」	187
『門前町誌』	201, 202, 205
『門前町史雑記』	204

や行

『洋画先覚本多錦吉郎』	89
『吉田五十八作品集』	185

「予は日本の建築を如何に観るか」	161, 172
------------------	----------

ら行

「利休の茶」	111
『利休の茶』	111
『料亭 東京芝・紅葉館』	41
『爐邊のつれゝゝ』	107

わ行

「我国住宅建築の改善に関する研究」	248
「我国将来の建築様式を如何にすべきや」	249
「我が家の茶室」	129
「我が家の庭と茶室」	129

「全国主要名席解説」	205
『禪茶録』	131, 137, 138
『続日本庭園雑話』	131

た行

『大工さしがねづかひ』	97
『高谷宗範高橋帯庵両先生茶道論戦公開状』	251
『高谷宗範伝』	224
『茶会漫録』	224
「茶事及茶室構造の改良」	132
「茶室」	131
「茶室建築」	85, 98
『茶室建築』	84
「茶室建築雑抄」	157, 160
「茶室建築と茶人」	187~189
「茶室建築の変遷を顧みて」	157, 159
「茶室考」	29, 84, 85, 95, 129, 138
『茶室構造』	85
『茶室構造法』	84, 118, 204, 215
『茶室構造法図解』	98, 132
『茶室図録』	98
「茶室説」	129
「茶室庭園」	85
「茶室と其主旨」	132
「茶室と茶庭」	178
『茶室と茶庭図解』	98, 216
『茶室と庭園』	247
「茶室の意匠」	134
「茶室の思想的背景と其構成」	171, 174, 176, 177
「茶室の話」	130, 131
「茶室名称図解」	161
「茶室明々庵」	130
「茶室用語」	161
「茶趣味から観た日本住宅」	189
「茶人になれ」	133
「茶席建築」	100
「茶席建築の發展を望む」	100
『茶道月報』	209, 210, 251
『茶道極意』	134, 137, 138
『茶道全集』	205
『茶道全書』	95, 101
「茶道と国家の礼式」	217

『茶道の主義綱領 茶室と庭園』	246
「茶道の精神と茶室」	134
『茶道宝鑑』	115, 118
『茶道要訣 茶室構造法』	85, 109
「茶道より観たる茶室と露地」	157
「茶道より観た茶席と露地」	160
「茶庭に就て」	157, 160
「茶ノ会の趣味と住宅建築」	130
『茶話指月集』	101, 102, 176
『徒然草』	167
『貞丈雜記』	247
『東京公園史話』	41
『東京市史稿』	51, 34
「道慶作三疊大目数寄屋指図解説」	187
『都市と建築』	145
「鈍翁コレクションのアルケオロジー」	87

な行

『名古屋市史』	203, 204
『南方録』	12, 87, 88, 101~103, 107, 108, 110~112, 132, 137, 159, 160, 169, 171, 174, 182, 211, 214~217
『南浦文集』	89
『日本建築規矩術』	97
「日本建築と西洋建築との關係に就ての第一印象」	186
「日本建築の国際性」	161
「日本建築の国際性——一つのレポーター ジュ——」	165
「日本古建築の機能的要素と近代思想」	161
「日本住宅の変遷史」	134
「『日本的なもの』とは何か」	161, 167
「日本に帰れ」	186
「日本の古建築を見直す」	161, 168, 172, 173
『日本の住宅』	248, 249
『日本唐土二千年袖鑑』	224

は行

『秀吉英雄伝説の謎』	206
「一つの警告」	161
『風俗画報』	206
『袋草紙』	116

【文献】

あ行	
「新しき住宅建築と茶室造」	134
『井伊大老茶道談』	138
「井上侯爵家本邸内内田山の茶席」	131
「有楽の茶室・如庵」	161, 173, 176
『裏門前町誌』	204
「江戸時代に於ける住宅建築概論」	247
「織部好茶室の一考察」	187
か行	
「ガーデン・シチーについて」	143, 145
『家屋雑考』	247
『画学教授法（梯氏）』	90
「我観建築」	133
『過去の構成』	158, 168, 171, 172
『桂御別業明細録 全』	115
『閑情席珍 茶室図録』	204
『閑情席珍茶室図録』	98
『喫茶敲門瓦子』	211
『京都府の近代和風』	227
『金城温古録』	202, 203
『近代茶道史の研究』	206
「近代数寄屋建築の展望」	179, 180
「近代数寄屋住宅と明朗性」	187
「空間構成の意義」	157, 158
「蔵の中の祖父」	161
『君台観左右帳記考証』	86
『桂亭記』	116
『現代オランダ建築』	111, 145
『現代の小住宅』	166
『建築画報』	156
『建築工芸画鑑』	128
『建築工芸叢誌』	128, 130, 143
『建築工芸叢誌』	131, 201
『建築雑誌』	99, 101
「建築進化の原則より見たる我邦建築の前途」	249
『建築世界』	128, 132, 135, 142, 156, 190

『建築と社会』	156
『建築ト裝飾』	130
『建築と茶味』	135, 142
「建築の非都市的なものについて」	111, 146
『建築様式論』	173, 174
『源流茶話』	216, 217
『好古類纂』	84
『麴町公園書類』	65, 68
『甲東園八勝図』	237
『耕南見聞録』	200
「好文亭について」	144
『国際建築』	156
『国民衛生』	248
『國華』	29, 85, 86, 138

さ行

『The Book of Tea』	85, 90
『猿面茶席の記』	202, 205
「猿面の茶室」	210
『紫烟荘図集』	111, 146
『思想』	111
『住宅』	128, 133, 134
『住宅研究雑誌』	135
『住宅建築』	247
『住宅新報』	133
「純正日本建築」	161
『書院造の研究』	247
『松翁茶会記』	44
「松向軒と蓑庵」	187
「饒舌抄」	179
「湘南亭行」	135
『松風雑話』	176
『芝蘭遺芳』	237
『新撰 茶席雛形』	85
『新撰東京名所図会 第七編』	41
「神話より空想へ」	186
『図解庭造法』	91, 95
『数寄屋聚成一 数寄屋建築史図聚 東山・桃山時代編』	204
「数寄屋建築の材料」	161
「数寄屋建築の設備」	179
「数寄屋建築の話」	179
『数寄屋構造法』	85

藤島亥治郎	161,164
藤原義一	99,187,247
藤原基房	240
フランク・ロイド・ライト	9,135,138, 183~184
ブルーノ・タウト	8,157,158,161,178, 179,182,185~187,191,252
古田織部	12,21,22,88,96,102,104,109, 160,171,176,200~202,208
ペリー	7,13,16
細川三斎	12,24,107
堀口翺靜	100
堀口捨己	9,29,30,86,95,110,111,156, 161,162,164,165,171,182
本多錦吉郎	84,85,99,109,113,130,131, 204,215

ま行

前島康彦	41
前田利常	16
前田齊泰	16
前山久吉	182
益田英作	142
益田克徳	21,142
益田鈍翁	21,22,26,27,60,85,87,117, 142,179,182
町田久成	15
松浦詮	113
松尾宗五	200
松方正義	222
松平不昧	12,22,117,130,188,189,212, 214
松田宗貞	57
松永耳庵	27
松浦心月	85
ミス・ファン・デル・ローエ	185
三谷義一	89
三野村利助	41,43,44,55,57,60,62
宮崎幸麿	113
宮田小文	207
村山龍平	230,249
本野精吾	161
森田慶一	110,174

や行

八木佳平	56,58,59,62
安田善次郎	41,43,44,90,143
柳宗悦	27,28
山県有朋	25
山口吉郎兵衛	85
山田守	110
山本松谷	56
山本麻溪	85,114,115,117,118
行岡庄兵衛	36
吉田五十八	20,22,31,179,180,184,185, 187
ヨセフ・オルブリッヒ	186

ら行

ル・コルビュジェ	9,166,184,186,190
----------	-------------------

わ行

渡辺俊一	140
ワルター・グロピウス	165,166,190

索引

小堀宗舟	222
子安峻	46~48, 50
金地院崇伝	116
コンドル	23

さ行

斎藤兵次郎	85, 97
阪元芳雄	134
佐古慶三	187
佐藤武夫	161, 164
佐分雄二	205
サミュエル・ビンゲ	8
沢島英太郎	187
沢田名垂	247
三条西実隆	10
芝川又右衛門	28, 228~230, 232, 235, 249
渋沢栄一	21, 60
島田藤吉	25
清水吉次郎	25
珠光	24, 102, 103, 182
如心斎	212
真龍院	16
杉本文太郎	98, 131, 132, 137, 215~217
鈴木博之	240, 251
千宗旦	12
千少庵	88
千仙叟	211, 214
千宗旦	148
千利休	9~12, 21, 22, 24, 29, 30, 42, 44, 52, 55, 57, 70, 71, 87, 88, 93, 95~97, 101~104, 106~112, 117, 129, 131~134, 137~139, 148, 159, 160, 169, 171, 173, 174, 176, 182, 185, 199, 209, 221
啐啄斎	212

た行

高橋箒庵	21, 118, 129, 133, 137, 142, 182, 221, 251
高谷宗範	29, 28
瀧澤真弓	161, 162, 167, 174, 186
武田五一	9, 28~30, 84, 85, 88, 98, 113, 125, 138, 139, 156, 159, 169, 174, 215~217, 246, 252
武野紹鷗	10, 96, 102~104, 134, 199

立花実山	12, 108, 214, 215
龍居松之助	157, 159, 160
田中仙樵	85, 110, 157, 160
棚橋諒	99
田邊泰	210
谷口吉郎	174
田畑謙藏	36
津田三郎	206
津田宗及	10
土橋嘉兵衛	28
デ・クラーク	170
天王寺屋五兵衛	222, 224, 226, 228, 243, 244, 245, 250, 252
徳川家康	217
富岡鉄斎	20
豊臣秀吉	10, 16, 42, 104, 116, 117, 174, 199, 201~205, 208, 211, 215, 217

な行

内藤源七	28
長岡安平	132, 138
中川徳一	228
中西保	186
中村竹四郎	55
西村勝三	37
西村兼文	115
根津嘉一郎	182
野崎幻庵	222~224, 226, 227, 236
野村得庵	22, 26, 208

は行

八条宮智忠親王	116
八条宮智仁親王	116
服部勝吉	135, 157, 159
浜田庄司	27
林愛作	133
早水友阿彌	129
原三溪	24, 27, 182
ハワード	26, 140, 141
平井竹次郎	20
平井貯月庵	222
平瀬露香	189
フェノロサ	90
藤井厚二	20, 138, 164, 248~251

【人名】

あ行

浅井忠	90
足利義政	102
井伊直弼	134, 138
石黒況翁	85
伊集院兼常	21, 25, 206, 221
泉幸次郎	85
伊勢貞丈	247
板垣鷹穂	161, 174
板野香	179
市島謙吉	134
市田弥一郎	25
一指斎	212
伊東忠太	100, 111, 112, 143, 249
井上世外	23, 24, 84, 89, 131, 182
井上頼因	113
猪野勇一	157, 159, 160
今井源兵衛	57, 59
今泉勇作	138
今泉雄作	29, 84, 85, 95, 113, 129
今井宗久	10, 102
岩橋轡輔	46
ウィリアム・モリス	8, 186
上野伊三郎	186
栄西	10
圓能斎	209
アウト (J・J・P)	166
大川三雄	240
仰木敬一郎	164
仰木魯堂	22
大熊喜邦	247
大澤三之助	135
大眉五郎右衛門秀綱	224
岡倉天心	85, 86, 90, 182
岡田信一郎	143
岡村仁三	22
小川治兵衛 (植治)	21, 221
小川清次郎	100

奥八郎兵衛	55~59, 62, 67
刑部陶痴	200
織田有楽	12, 88, 169, 171
小田切春江	201, 210
織田信雄	203
織田信長	10, 16, 199~205
小野義眞	41, 46, 48
小野善右衛門	55, 57, 58, 60, 62

か行

柏木助三郎	164
柏木探古	22
片桐石州	102, 104
金森宗和	15, 102, 104
嘉納治郎右衛門	28, 222, 223, 228, 229
河井寛次郎	27, 28
木子清敬	22, 33, 55, 100, 109, 110, 112
岸田日出刀	158, 161, 164
北大路魯山人	18, 55
北尾春道	179, 181, 182, 187, 204, 240
北村勤次郎	22
北村捨次郎	22
北邨竹軒	131
木津宗詮 (宗一、聿斎)	22, 187~189, 191
木村榮二郎	161, 164
木村幸一郎	210
木村清兵衛	20, 137, 164
吸江斎	212
久宝庵主人	85
九鬼隆一	90
九條道孝	48
国沢新九郎	90
熊倉功夫	206
蔵田清右衛門	37
蔵田周忠	161, 162, 165~167
玄々斎	20, 211, 212, 214
上坂浅次郎	22
古宇田實	130
小杉樞邨	113~116
小林一三	20
小文法師	20
小堀遠州	12, 21, 22, 88, 102, 104, 116, 117, 133, 148, 160, 169, 171~174, 182, 221

索引

本願寺	14
ま行	
榊床席	164
三井組	36, 62
妙喜庵	93, 97, 104, 109, 111, 207
民家	11, 22, 27, 31, 155, 166, 168
民藝	27, 28
無色軒	163, 164
武者小路千家	189, 212
無着軒	20
無鄰庵	25
明治美術会	90
明治村	228, 229, 235
メディア	84, 214
モダニズム	21, 22, 30, 125, 164, 165
モダンデザイン	8
や行	
藪内家	26, 102, 141, 206, 208
大和絵	31
遣水	17, 25
又隠	141, 148, 149, 163
夕顔亭	141
遊芸性	110, 211, 214
遊芸的	12, 19, 44, 55, 70~72, 112, 217
幽月庵	179
曲柱	163
様式化	148
様式建築	111, 135, 175, 249
様式主義	109
楊枝柱	11
吉野窓の席	141
澱看席	114, 117
寄付	69
ら行	
ラ・サラ宣言	156, 157
楽只庵	224, 226~228, 235, 244, 252
利休百年忌	102, 211
利休百五十年忌	169, 212
利休二百年忌	212
利休二百五十年忌	212
利休三百年忌	85, 206

利休三百五十年忌	173
利休忌	12, 213
利休堂	12, 19, 22, 42, 44, 52, 55, 57, 60, 70, 71, 92, 94, 97, 104, 109, 115, 117, 118, 189, 211~215, 217
立礼	19, 133
立礼席	133
ルドリヒ大公成婚記念塔	186
ルネサンス	234, 246, 252
歴史主義	110, 111
蓮斎	245
連子窓	15, 92
炉	11, 17, 22, 24, 27, 28, 68, 69, 87, 92, 103, 157, 164, 175, 177, 244
六窓庵	15, 24, 94, 97, 104, 109, 141, 188, 201
鹿鳴館	22~25, 33, 221
蘆葉舟	26

わ行

和敬会	85
-----	----

天五楼 227, 244, 250
 点茶卓 20
 天王寺屋 224~226, 228, 243, 244
 ドイツ工作連盟 158
 道安囲 212
 桐蔭会 209
 桐蔭席 199, 208~210
 東京会議所 36~39
 東京国立博物館 15, 24, 104, 141
 東求堂 87, 102, 104
 透視図 89, 90, 96, 97, 164, 215
 同仁齋 102
 棟梁 21, 23, 140
 独楽庵 12, 117, 118, 189
 床框 164, 244
 床の間 11, 17, 22, 25, 27, 30, 52, 65, 67~
 69, 92, 97, 103, 148, 149, 163~166, 169,
 175, 177, 181, 182, 188, 208, 230, 231, 236,
 244, 245, 250
 床柱 30, 44, 148, 149, 162, 163, 177, 181,
 204, 205, 209, 224, 226, 230, 231, 244
 土間 24, 133
 土間席 20
 土間庇 17, 69, 179, 181

 な行
 内国勲業博覧会 15, 43, 44, 48, 200
 中柱 25, 92, 164, 169, 175, 177
 名古屋博物館 200
 奈良国立博物館 24
 躰口 10, 11, 17, 20, 25, 92, 107, 162~164,
 177, 209, 244
 日本インターナショナル建築会 157
 日本趣味 134, 144, 182
 日本的 137, 167
 塗回し 11
 暖簾壁 226

 は行
 パークメルウク 111, 147
 廃仏毀釈 13, 15
 白雲洞 22, 27
 博物館 15, 17, 24, 84, 125, 128, 141, 200,
 203

博覧会 14~18, 24, 25, 43, 84, 125, 141,
 200, 203
 白鹿湯 27
 八勝館八事店御幸の間 30
 八窓庵 23~25, 84, 148, 188, 201
 八窓席 111
 ハムステッド 143
 パルテノン 3, 175, 176
 バロック 172
 バンガロー 142, 189
 万国博覧会 13, 14, 201
 版籍奉還 14, 17
 反相称 174, 175
 飛雲閣 170, 187, 208
 非相称 9, 29, 108, 112, 168
 非都市的 146~149
 表現主義 30, 170
 平天井 50
 琵琶湖疏水 18, 25
 檳榔樹 231
 袋床 25, 244
 伏見稻荷御茶屋 11
 撫松庵 245
 不審菴 212
 不染庵 27
 不忘庵 224, 227, 244
 踏込床 181, 212, 245
 不老庵 236, 237
 プロフェッショナル・アーキテクト 28,
 221, 239, 253
 文房室 240, 252
 分離派建築会 110, 145, 156, 162, 165, 174
 分離派宣言 29, 162
 平和記念東京博覧会 165
 碧雲荘 22
 方圓亭 223
 豊秀舎 208
 忘筌 171, 172
 法隆寺 168, 169, 174, 186
 反古貼 212
 星岡茶寮 5, 18, 19, 22, 33~36, 40, 44, 55,
 84, 86, 89, 92, 94, 97, 100, 109, 110, 112,
 213, 215
 堀内家 20

索引

春秋亭 245, 252
 春草廬 169
 如庵 114, 131, 161~164, 173, 177, 178, 223
 書院造 11, 156, 166, 247
 笑意軒 30, 141
 松花堂 189, 214, 236, 237
 彰技堂塾 90
 松琴亭 111, 141, 148, 149, 164, 252
 招賢殿 208
 松向軒 164
 正伝院 14, 19
 松殿山莊 5, 28
 湘南亭 131, 136, 139
 相伴席 88, 97, 176, 178
 進化論 112
 心弘庵 179
 新御殿 164
 新古典主義 214, 246
 真珠庵 207
 申々居 240
 壬申検査 15
 寝殿造 26, 31, 247
 神仏分離令 13
 瑞風軒 242
 数寄者 21, 23, 24, 26, 33, 83, 125, 136,
 139~141, 160, 198, 221, 222
 数寄屋建築家 21, 23, 125, 140, 161, 190
 数寄屋大工 20~23
 数寄屋風書院造 11
 捨柱 165, 179, 245
 醒花亭 14
 聖賢堂 244
 清香軒 17, 18
 清香書院 17
 晴湖軒 237
 西山莊 141
 精神性 19, 131, 132, 136~138, 174, 210,
 214, 215
 精神的 70~72, 139, 141, 217
 精神論 134
 成巽閣 16~18
 聖堂 244
 清流亭 22
 関屋弥兵衛邸 180

セセッション 99, 130, 138, 229, 246, 252
 夕佳亭 88, 114, 245
 千家 70, 71, 102
 前後軒 162
 煎茶 14
 仙洞御所 14, 182
 仙靈学舎 231, 245
 草庵 11, 12, 28, 87, 106, 132, 135, 137, 178,
 222, 248, 253
 造形運動 135
 相称性 175
 草体化 10, 137
 袖壁 25, 175, 177, 188
 た行
 待庵 10, 88, 97, 111, 131, 161, 164, 187,
 212, 214
 太鼓襖 11
 大師会 85
 対字斎 27
 大日本茶道学会 85, 110, 157
 對龍山莊 25
 辰巳用水 16, 17, 25
 知恩院 14, 43
 力竹 11
 千島土地 235, 236, 239
 茶室建築家 187, 191
 茶道経国 251
 中玄関 242, 252
 中書院 164, 242, 246
 聴秋閣 11
 聴竹居 250, 251
 眺望閣 242
 突上窓 11, 103, 163
 月字崩しの欄間 164
 土壁 11
 土橋邸 28
 庭玉軒 163
 帝室博物館 86, 116
 亭主床 178
 適塾 225
 点前座 15, 25, 50, 162~164, 169, 177, 188,
 208, 237
 田園都市 26, 155

丸炉	69
黄金の茶室	171,174
北野大茶会	102
貴人	11,88
貴人口	17,51,245
機能主義	166
ギメ美術館	86
九塚廬	240
給仕口	209
九窓亭	188
京都御所	31
京都博物館	246
京都博覧会	14,19,115,141
曲材	175
玉泉亭	223
玉林院	207
近代主義	109,112
近代性	166
求道的	19,214,217
形式主義	157
迎賓	40,46,53,54
化粧屋根裏天井	51,208,240
玄庵	28
原叟床	17,18,149,181
建築進化論	111
献茶	16,84,206
賢堂	245
建仁寺	14,19
兼六園	16,17,25,96,141
公園	34,84,125,141,198
好古庵	240,252
麴町公園	18,33,84,213
廣誠院	25
高台寺	141
甲東園八勝園	236
興福寺	15
好文亭	144,145
紅葉館	5,19,33,34,37,40,213
後楽園	18,96
合理化	157,166
合理主義	137,168~170
国際化	186
国際建築	165,173
国際性	166,167

国際的	167,173
古材	27,130,131
古書院	30
コテージ	142
五風荘	22
孤篷庵	169,171,172,207
金地院	207
今日庵	94,97,109,175,212,214
さ行	
蓑庵	163
西行庵	20,207
茶道口	163
猿面茶室	15,164,209,210
産業革命	7,8,13
三溪園	24,169
残月舎	208
残月亭	207~209
山舟亭	223,230,232,236,237
榭松庵	227,228,245
山王荘	156
サンルーム	251
C I A M	156
ジードルング	158
紫烟荘	30,146,148,149
ジェントルマン・アーキテクト	221,222,226,234,235,239,249,251,253
シカゴ博覧会	85
時雨亭	141
四君子苑	22
四聖坊	23
下地窓	11,15,20,25,92,103,164
市中の山居	27,140,141
シノワズリ	7
芝公園	16,19,37,40,213
渋沢邸	22
清水組設計部	164,181
社交施設	18,19,33,34,53,54,84
ジャポニズム	8
修学院離宮	11,100,170,182,242
十八会	85,222,227,249
縮尺	96
聚光院	169,207
聚楽屋敷	11

索引

【事項】

あ行

アール・ヌーヴォー	8, 99
アイソメ	90, 97, 98, 215
愛知県博覧会	15
青山御所	22
アクロポリス	172
網代	234
アムステルダム派	26, 155
出雲大社	174
伊勢神宮	170, 172
移築	10, 12, 15, 16, 23, 24, 27, 44, 48, 52, 53, 84, 97, 104, 118, 130, 136, 141, 162, 198, ~201, 224~229, 235, 237, 239, 243~245, 250, 252
市松模様	164
田舎趣味	135
田舎家	22, 26, 149
今遠州	221, 222
為楽庵	179
色付九間	11
囲炉裏	22, 27
インターナショナル建築会	191
上野公園	16
ヴォールト	28, 240, 242, 246
有楽窓	177
裏千家	19, 97, 100, 141, 148, 163, 164, 206, 208, 214
雲脚席	26
遠近法	90, 91, 95
遠州流宗鳳派	222
円窓	25, 69

燕庵	141, 207, 208
燕庵形式	97
大壁	11
大倉集古館	86
大玄関	242
大崎園	12, 114, 117, 118, 189, 212, 214
大書院	243, 252
岡田邸	164, 165
御輿寄	164
落天井	50
落掛	148, 149
小野組	36, 62
表千家	100, 206~208, 212
折上天井	234, 240, 242, 244, 246

か行

偕楽園	18, 96, 140
掛込天井	11
花月座敷	17
花月楼	104
傘亭	141
霞棚	242
桂棚	117, 164
桂離宮	3, 11, 30, 100, 111, 141, 148, 157, 164, 170~173, 181, 182, 186, 187, 252
火灯口	11
火灯窓	208
壁床	20
花泛亭	26
茅葺	15, 20, 26~27, 30, 93, 111, 140, 141, 146, 147, 149, 155, 212, 214
ガラスパヴィリオン	158, 185
閑隠席	163, 169
閑雲亭	179
官休庵	22, 114
寒松堂、掃雲台	179
簡素な表現	9, 31, 108, 112

◎著者略歴◎

桐浴 邦夫 (きりさこ くにお)

1960年和歌山県生。京都工芸繊維大学大学院修士課程修了。工学博士。現在、京都建築専門学校副校長。

主な著書に、『近代の茶室と数寄屋 茶の湯空間の伝承と展開』(淡交社)、『モダンエイジの建築』(共著、日本建築協会)、『世界で一番やさしい茶室設計』(エクスマレッジ、中国語〈繁体字〉林書嫻訳『日式茶室設計』、易博士出版社)、『寺田家旧蔵数寄屋関係史料調査報告書』(共著、竹中大工道具館)、「山上宗二記にみる茶室」(『茶道文化研究』第六輯)。

ちゃ ゆ くうかん きんだい せかい み す わふうけんちく
茶の湯空間の近代——世界を見据えた和風建築

2018(平成30)年1月25日発行

著者 桐浴邦夫

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

装幀 白沢 正

印刷 亜細亜印刷株式会社

©K. Kirisako, 2018

ISBN978-4-7842-1930-8 C3052